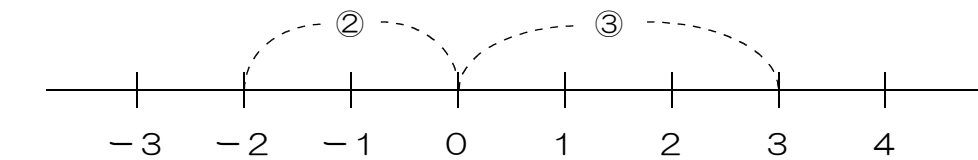


3 絶対値と数の大小

★数直線上で、0からある数までの距離を、 といいます。



例

+3の絶対値は・・・3

-2の絶対値は・・・2

0の絶対値は・・・0

ポイント
ある数の絶対値は、符号（＋や－）を取った数で表されます

<練習1> 次の数の絶対値をいいなさい。

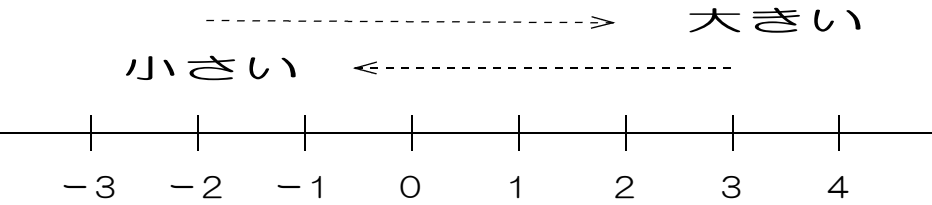
- ① +8
- ② -10
- ③ +2.5
- ④ $-\frac{1}{3}$
- ⑤ -0.7

<練習2>

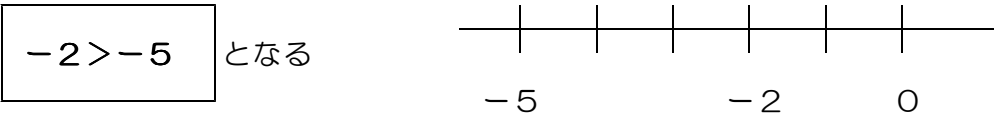
- ①絶対値が7になる数をいいなさい
- ②絶対値が3.6になる数をいいなさい

★正負の数の大小

数直線上では、右のある点が左にある点より大きくなります。



(例) -2と-5とでは、-2の方が-5より右にあるから



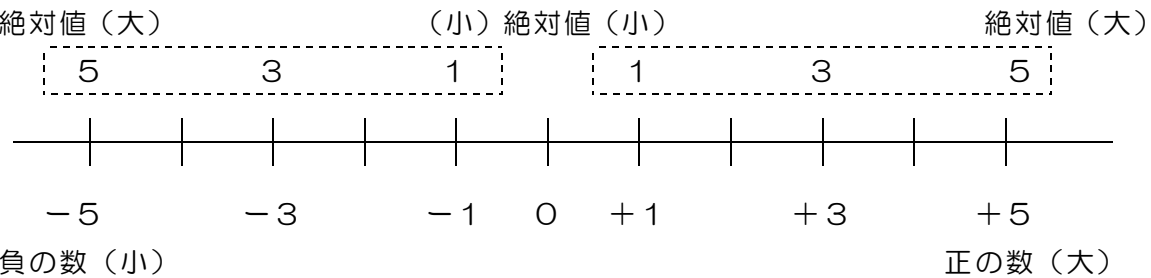
数の大小関係を表す記号 $>$ 、 $<$ を という。読み方 $>$ 、 $<$ 大なり 小なり

<練習3> 次の口に不等号を書き入れて、2数の大小を表しなさい。

- ① 5 3
- ② -4 1
- ③ 0 -3
- ④ 1 0
- ⑤ -2 -5
- ⑥ $\frac{1}{3}$ 0
- ⑦ 0 $-\frac{1}{2}$
- ⑧ $-\frac{1}{2}$ $-\frac{1}{3}$

<練習4> 次の3つの数の大小を、不等号を使って表しなさい。(ヒント)まず、小さい順に

- ① 0、 -3、 5
- ② 3、 -2、 -5



数の大小

正の数は負の数より大きい

正の数は0より 、絶対値が大きいほど

負の数は0より 、絶対値が大きいほど

<練習5> 次の数を小さい方から順に書きなさい。

+2、 -3、 0、 $-\frac{7}{5}$ 、 -2、 2.4

<練習6> 絶対値が5より小さい整数をすべて書きなさい。